



木を植えています

未来の子どもたちのために



2016年11月7日
公益財団法人イオン環境財団

名水湧き出る豊かな大自然の継承と、森林の再生を目指して

11/12(土)第1回「大分県竹田市植樹」開催

600名のボランティアの皆さまと7,400本を植樹

公益財団法人イオン環境財団（理事長 岡田卓也 イオン株式会社名誉会長相談役、以下、当財団）は11月12日（土）、3年計画の初回となる「大分県竹田市植樹」を行います。

竹田市は、九州一の湧水群と大分県下最大の河川大野川源流を有し、水と緑があふれる自然豊かな地域です。山々で育まれた豊かな名水と炭酸泉は全国的に知られ、下流域の多くの人々の生活を支えています。

当財団は本年6月、大分県ならびに竹田市と「森林整備に関する協定書」を締結しました。同協定に基づき、竹田市周辺の大自然の恵みを次世代に継承するため、森林の水源涵養(※)や災害防止などの公益機能を将来にわたって継続させ、森林資源の確保と伐採跡地の森林への再生に向けて3年計画で植樹を実施します。

初回となる本年は、地域ボランティア600名の皆さまとともに7,400本の苗木を植えます。環境教育の一環として、竹田市立直入小学校の児童と保護者、計150名の皆さまにも植樹に参加いただきます。

当財団はこれからも、豊かな自然と人々のくらしを守るため、植樹活動をはじめ、環境保全活動により一層取り組んでまいります。

(※)水源涵養機能：森林の土壌が降水を貯留し、河川や湖沼に流れ込む水量を平準化して洪水や渇水を防ぐ機能のこと。

記

日時 2016年11月12日（土）9：30～11：30

場所 （開会式）竹田市役所直入支所 住所：大分県竹田市直入町大字長湯8201
（植樹地）大分県竹田市直入町大字長湯下野6252-1

参加人数 600名

本数 7,400本

樹種 ケヤキ、ヤマザクラ、ヤマモミジ、ホウノキ、トチノキ、カツラ、イヌエンジュ、モミノキ、ヤシャブシ、クヌギ 計10種類

面積 3ha

主催 竹田市、公益財団法人イオン環境財団

協力 大分県、竹田市森林組合、公益財団法人森林ネットおおい

出席者 大分県 知事 広瀬 勝貞 様

(予定) 竹田市 市長 首藤 勝次 様

公益財団法人イオン環境財団 理事長 岡田 卓也

イオン九州株式会社 社長 柴田 祐司

マックスバリュ九州株式会社 社長 佐々木 勉

備考 当日9：00から竹田市役所直入支所にて、同市の農水畜産物や伝統芸能が披露される「第40回直入地区 ふるさと振興祭」が開催されます。植樹終了後、植樹ボランティアの皆さまが参加される予定です。

以上

ご参考

【公益財団法人イオン環境財団について】

当財団は「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオンの基本理念のもと、21世紀が水と緑の世紀になることを願い、1990年に設立しました。設立以来、環境活動に取り組む団体への助成や、国内外での植樹、生物多様性への取り組み、環境教育などを主な事業として、さまざまな活動を継続しています。イオンの植樹は1991年のスタートから数え、2016年2月末現在で累計植樹本数が1,117万本を超えています。

■公益財団法人イオン環境財団ホームページ <http://www.aeon.info/ef/>

【九州における当財団の植樹活動について】

2010年～2012年 長崎県「南島原植樹」

長崎県南島原市の^{うわはる}上原地区は、戦後の開墾と整備により山林の木々が伐採されことにより、雨水を蓄え河川に流れる水量を安定させる水源涵養機能が低下していました。当財団は、上原地区の本機能を回復し、土砂災害の防止機能を取り戻すため、2010年から2012年まで植樹活動を行い、のべ3,800名の皆さまと合計55,500本の苗木を植えました。



2013年～2015年 宮崎県「綾町イオンの森」植樹

宮崎県綾町は、冬でも落葉しない希少な常緑樹が広がる照葉樹林が日本最大級の規模で現存しており、2012年7月、国内で5カ所目となるユネスコエコパークとして登録されました。伐採適齢期を迎えた町有林の木材を老朽化した中学校校舎の建て替えに活用するなど、エコパークの町として地域の資源を大切にしています。(写真参照)

綾町、宮崎県、宮崎中央森林組合と当財団は、町有林の伐採跡地を本来の里山として復元するため、2013年11月に「綾町イオンの森」整備・保全協定を締結しました。この協定に基づき、2013年から2015年までの3年間で、のべ1,750名の皆さまと合計15,000本の苗木を植えました。植樹地にはやぐらが設置され、公園整備が進められています。



【イオン各社と竹田市の連携について】



イオンは全国各地で郷土の味を守る生産者さまと手を携え、日本伝統の食文化や技術の継承・保存・ブランド化を目指す「フードアルチザン（食の匠）」活動に取り組んでいます。

大分県では、海辺の平地から高原地帯までの温度差を活かし、産地を変えながら一年を通してトマト栽培が盛んです。同県竹田市や臼杵市で生産される「赤採りトマト」は青い状態で収穫され店頭で並ぶまでの間に赤くなる一般的なトマトと異なり、赤く熟れた状態で収穫・出荷するため、味が濃く甘いことに加え、畑で収穫したてのおいしさを味わえるといわれています。イオンは大分県や地域の農協とともに、2012年に「赤採りトマトフードアルチザン（食の匠）プロジェクト」を立ち上げ、赤採りトマトの魅力を全国に発信し、産業振興と地域活性化を目指しています。

また、イオンコンパス株式会社は2015年より「赤採りトマトの収穫体験ツアー」を実施しています。

